

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2013

8月

No.98

特集
P2・3

あの豪雨災害から4年

災害に備える 社協の取り組み



ひ孫と
いっしょ

シリーズ97

波賀町 小野

はやかわ
早川 かやさん(95歳)

とうま
○斗真くん(5歳)

はると
○遥人くん(11ヶ月)

ひのたいぎ ゆか
日野 大樹さん・友香さん
■長男・二男



猛暑の中、側溝に堆積した土砂を除去するボランティア
(H21.8.14 福知自治会内)

あの豪雨災害から4年

災害に備える 社協の取り組み

改定した「災害救援ボランティア活動支援マニュアル」
(写真右)と「職員携帯版」



平成21年8月9日から10日の
未明にかけて、宍粟市に大きな
被害をもたらした「台風9号豪雨
災害」から4年が経過しました。

その後、「東日本大震災」や平成22年9月に和歌
山県等に大きな被害をもたらした「台風12号豪雨災
害」など、全国各地に災害が発生しています。

今月号では、あの豪雨災害から4年を経た今、この
間本会が取り組んできた災害救援活動についてお
知らせします。

役立った 災害救援マニュアル

台風9号豪雨災害の災害ボラ
ンティアセンターの立ち上げや
運営には、災害時の緊急対応を
スムーズに行うための手引書と
して、本会が平成19年度に策定
した「災害救援ボランティア活
動支援マニュアル」が役立ちま
した。

マニュアルを用いて災害ボラ

ンティアセンターの立ち上げ
訓練を行っていたことで、職
員の参集や介護サービス利用者
の安否確認、地域の状況把握を
スムーズに行うことができまし
た。また、市からの要請を受け、
人工透析患者の総合病院への緊
急移送などにも対応しました。

しかし、実際に災害ボラン
ティアセンターを運営してみ
ると、見直しが必要な点が多々
ありました。

災害時の 事業継続計画を策定

あったことから、平成23年度に
内容の一部を修正しています。

大規模災害が発生した場合、
社協は災害ボランティアセン
ターを設置、運営すると同時
に、要介護高齢者や障がいを持
つ方々の日常生活支援などの福
祉サービスを継続して行わなけ
ればならない使命があります。

また、地域や市民の生活を支
えるため、災害で一時中断して
いた事業も早期に再開してい
かねばなりません。

そのためには、災害後の本会
の混乱を最低限に抑え、事業の
継続や早期に再開ができるよ
う、平時から災害によって起こ
りうる様々な被害を想定し、準
備や取り決めをしておく必要が
あります。

これを**事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan)**とい

い、本会では昨年度、横浜銀行
グループのシンクタンク・コン
サルティング会社である(株)浜銀
総合研究所と共同で策定しまし
た。その基本方針は、次のペー
ジに記載したとおりです。

お詫びと訂正

先月号の本会第5期役員名簿で誤りがありましたので、訂正いたします。
杉尾多喜子理事の住所を「福中」と紹介しましたが、正しくは「福野」でした。関係者の皆様にご迷惑をおかけしました
ことを深くお詫びし、訂正させていただきます。

災害時に生きる 地域のつながり

しかし、このように策定したマニュアルやBCPが災害時に役立つものとするには、役職員の災害想定訓練や地域と社協とのつながりをより太いものに

穴栗市社協事業継続計画 基本方針

1. 人命・安全の確保を 最優先にする

職員やその家族、福祉サービス利用者の安否確認、安全確保を最優先に行う。

2. 社会的責務の遂行を 基本にする

事業継続計画の発動と同時に「穴栗市社会福祉協議会災害救援ボランティア活動マニュアル」に基づいた災害ボランティアセンターを設置・運営する。

3. 事業の復旧・継続維持を 優先する

地域福祉事業や介護保険サービス事業の中で、優先的に立ち上げ、復旧しなければならぬ業務について優先順位により選定し、もしくは目標復旧時間を設定し、設定した時間内に当該事業を復旧させる。



上岸田自治会(写真右)と福知自治会(写真左)では、自治会が災害対策本部を立ち上げ、救援活動を行いました

しておくことが必要です。その核となるのが、「小地域福祉活動」です。

各自治会で組織された「自治会福祉連絡会」の話し合いやふれあい喫茶やサロン等に職員も参加し、地域で支援が必要とす

る方の情報を交換しています。そして、何かあった時には、気軽に相談していただける「顔の見える関係づくり」を進めています。

また、自治会が小地域福祉活動に取り組むことで地域のつながりが太くなり、災害時の避難やその後の復旧活動に役立つことは、台風9号豪雨災害の経験が証明しています。

つながりふくしプランに 災害対策を明記

平成23年度に策定した「第二

次地域福祉推進計画(つながりふくしプラン)」にも、災害への備えを掲げています。

災害ボランティアセンターに必要な機材や備品を毎年計画的に整備し、豪雨災害後に設置した防災倉庫等に保管しています。

また、災害ボランティア活動についての研修会を開催したり、災害救援基金の積み立てを行うなど、災害時に社協が十分にその役割を発揮できるよう、様々な取り組みをしています。

やすらぎ福祉フェスタ



シンポジウム

「豪雨災害から4年！

あらためて地域のつながりを考える」

と き

8月25日(日)

午前10時～午後3時30分

シンポジウムは午後1時30分～

会 場

一宮保健福祉センター

主 催

穴栗市、穴栗市社会福祉協議会

○午前中は、ボランティア体験コーナーや健康相談、ゲーム大会、朗読劇、模擬店等を行います。また、昼食時にはカレーライスの炊き出しをします。みなさん、どうぞお越しください。

お問合せ

穴栗市社会福祉協議会

TEL.72-8787 FAX.72-8788

やさしさ
まさき

今日のゲームも楽しかったよ!

下牧谷ふれあい喫茶

7月14日(日)、下牧谷公民館で行われたふれあい喫茶は、子どもから大人まで約80名の参加でにぎわいました。

下牧谷自治会では、より多くの方に参加してもらおうと、自治会の集金日にあわせて開催したり、子どもの好きなゲームを用意するなど工夫をされています。

ゲームには、毎回社協の貸



「ゆで卵上手にむけるかな…」子どもの参加が多いと自然と会場はにぎやかに(下牧谷公民館)



「よく球をねらって!」ゲームを楽しむ子どもたち

出備品を利用され、今回はミニビリヤードとスカットボールⅡが好評でした。元気に遊ぶ子どもたちの様子を見て、「子どもに元気をもらえる」「ちよつと見ない間に大きくなるなあ」など、お年寄りもお茶を楽しまれました。

社協では、ふれあい喫茶やサロンなど地域の行事に活用いただこうと、ゲームなどの貸出備品を用意しています。ぜひご利用ください。

(山崎支部 森井裕矢)

いのちのみや

「うちは小さな集落やで」 森添自治会の福祉活動

森添自治会は世帯数11、人口50人の集落です。

7月21日(日)、当自治会では、荒神社夏祭(28日)に向けた準備(草刈作業等)に合わせ、ふれあい喫茶を公民館で行いました。

森添公民館は神社境内に隣接しており、草刈作業が終わるころには、赤ちゃんからお年寄りまで38人が顔を合わせ喫茶が始まりました。

会場を公民館と境内前につくり、配膳はエプロン姿の子どもたちの仕事です。「お待ちせしました。コーヒーです」「おっちゃん、持ってきたで飲んでよ」と、飲み物やお菓子がテーブルに運ばれます。

「うちは小さな集落やで行事をやるときは全住民参加です」と、代表福祉委員の山口清次さんは話されます。



笑い声や赤ちゃんの泣き声が(森添公民館)



作業を終えられたみなさんは境内前で(左の建物が公民館)

このような全住民参加の福祉活動は、小規模自治会ならではの取り組みと言えるのではないのでしょうか。

(本部・宮支部 波多野好則)

は
が

だれもが健康でいられるために

健生会の健康体操

「最近調子はどないや」と、お互いの健康を気遣うみなさん。
「先生がここまで来てくれてやで続けられ

年

は、平成4
波賀町で
支部の阪口
恵美子さん
(日)原。

7月16日(火)、
波賀町最北部の戸倉
公民館で健康体操が
行われているとお聞
きし、伺いました。
この健康体操に
は、戸倉だけでな
く、鹿伏や道谷から
も参加者があり、7
年間毎週火曜日に行
われています。

指導するのは、



いつまでも若い元気な体でいるために(戸倉公民館)

るんや」と、家の近くで健康体
操ができることを喜ぶ声も。
「出るのが難しい人のために
こちらから出向いています」と
話してくださる阪口さんは、戸
倉や鹿伏、原などで指導されて
います。
公民館で健康体操を行うこ
とで、気軽に参加でき、健康が
守られているのだと感じまし
た。

(波賀支部 平有利菜)

ち
くさ

布ぞうりで町おこし

グループときめき

履いて良し、作って良しの布
ぞうり、手馴れた人にかかると
2時間ほどで出来上がりです。
10年前、町おこしになればと
始まった布ぞうり作り。その後
8名が『グループときめき』と
して活動されています。
「縫製工場で出る切れ端など
をもらって来て…。色目が悪く
なったら自分たちで
染めるのよ」と代表
の春名(はるな)さん。
それぞれの自宅で
行う布ぞうり作りで
すが、たまには集まっ
て、ぞうりの仕上が
り具合を確認しま
す。そして、出来上
がったぞうりは道の
駅などで販売してい
ます。



そうめん旗を利用した簡易編み機で、聴覚障がいの方に指導(センターちくさ)

流しました。
参加者からは「左右同じに作
り上げるのが難しい」「布ぞう
りは履いて気持ちええな」など
の感想がありました。
これからも、伝統の技ととき
めきを多くの人に伝えてくださ
い。

(千種支部 小原志のぶ)



左右同じにならなかった参加者の作品

男性ボランティアが大活躍!



初心者の方にも丁寧にアドバイス
「ボールをよく見ながら打った方がうまくいくで!」

7月10日(水) フォレストステーション波賀

波賀ボランティア連絡会が交流会を行い、グラウンドゴルフや食事で34名が交流を深めました。

2回目となる今年は男性の参加が増え、会場準備やルール説明、打ち方のアドバイスなど奮闘していただきました。参加者からは「同じ町に、大勢のボランティアがいることを改めて感じた。」「男性が準備など細かいところまで関わってくださって、ありがたかった。」という声もありました。

ボランティア同士のつながりが広がることで、地域の元気にもつながっていると感じた会でした。

(波賀支部 草田希望)

朗読ボランティア、いつもありがとう!



本の朗読や手紙の代筆、
そしてなによりおしゃべ
りが一番の楽しみ

7月16日(火) ローズハウスはりま

朗読ボランティアふきのとう一宮による、訪問朗読が行われ、この日は3名のボランティアが入居者のみなさんと交流しました。

この訪問朗読活動は、ローズハウスはりまで生活されている黒田修一さんから、もっと地域の方とふれあいや交流がしたいという思いに応え、5月から毎月第1、第3火曜日に訪問し、入居者のみなさんと交流をしているものです。

「ボランティアのみなさんが来てくれるのが楽しみ。いつも来てくださってありがとう!」と黒田さんは話されます。

これからも地域のみなさんやボランティアの方々
が気軽に立ち寄り、ふれあいや交流が増えればいい
ですね。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

善意銀行預託金を活用

116グループへ助成



宍粟市社協 ボランティア活動 助成金

この助成は、宍粟市内で活動しているボランティアグループが、安定的かつ継続的に活動ができるよう支援するもので、今年は116グループから申請がありました。

7月16日(火)に助成金交付審査会が行われ、申請された全グループに交付が決定(上限15,000円)。合計173万8千円を助成させていただきました。

なお、この助成金の財源は、市民のみなさんからお寄せいただいた善意銀行預託金を活用しています。

手話入門教室

気軽に楽しく始めましょう!



「ありがとう」

7月17日(水) センターちくさ

手話を少しでも多くの人に知ってもらおうと始めた入門講座(全3回)。第1回目は12名が参加されました。

講師は宍粟ろうあ協会のやぎまさゆきさんと『手話サークルなのはな』のみなさん。

「□の形を見るだけでは、わからなかったけど、身振りをつけたらよくわかった」「世界共通の手話があったらいいね」などと参加者の声。

手話に興味を持って、続けて学んでくれる人が増えるといいなと思いました。

(千種支部 小原志のぶ)